

www.logergist.ac.jp は既に国内でもっとも有名な科学系の web ページである。今さらの感はあるが、このページを概観し成功の理由と意義について考えてみたい。

www.logergist.ac.jp のトップページは至ってシンプルだ。必要最低限の説明や更新履歴をのぞけば「小篇集」と「雑談集」へのリンクがあるだけ。派手な視覚効果を使うページが当たり前になっている昨今では、かえって新鮮にみえる。

「小篇集」は言うまでもなく、ロゲルギストエッセイを収めたアーカイブである。1959年から二十五年間にわたって月に一回「自然」に掲載されたすべての作品が完全な形で採録されている。誰もが無料で読み、印刷し、(商用以外なら)自由に利用できる*1。「自然」の休刊から数年後の1989年に新たな同人を迎えてロゲルギストが「再結成」してからは、今日に至るまで、やはり月に一回のペースでエッセイが発表されている*2。「新生ロゲルギスト」の手になるこれらのエッセイも全て「小篇集」に収められている。

今年になって発表された小篇は、「相対性理論のパラドックス (その11)」、「弾性衝突再考 — 衝突球を糊付けする」、「グーグルと行列」、「折り紙、微分幾何、そして、超弦理論」、「マクスウェルの魔と量子制御」。古くからの同人と新しいメンバーの交流から生まれた幅広い (しかしロゲルギストらしい) テーマが並んでいる。

『科学』2009年8月号「ロゲルギスト『物理の散歩道』のころ」所収

*1 このような出版社の英断は随分と議論を呼んだ。だが、結果的には web 公開により新たなファンが増え単行本の売り上げも伸びたとする分析がある。実際「新物理の散歩道」は2009年に文庫化されている。

*2 再結成後のエッセイは (多くは雑誌にも掲載されたが) すべて電子ネットワークを利用して無料で公開された。当初は ftp によるダウンロードやメールマガジンによる配信を利用していましたが、段階的に web に移行していった。

同人が装置を自作して行なった実験を報告する良き伝統も健在だ。

しかし、www.logergist.ac.jp の真の魅力は、1999年に試験的に導入され、2002年頃から急激に成長した「雑談集」のほうにあると私は考えている。「雑談集」は、いわゆる web 掲示板だが、ロゲルギストの科学談義の「会場」でもある。「雑談集」には、それぞれのテーマを扱ういくつものスレッド*3があり、進行中のスレッドには毎日のように新しい投稿が書き加えられる。ただし、「雑談集」は誰でも読むことができるが、書き込みができるのは (原則として) ロゲルギスト同人だけだ。ここは「雑談集」が通常の (誰でも書き込める) web 掲示板と根本的に異なるところである。言ってみれば、互いに気心の知れた同人たちが内輪で展開する雑談の「生中継」を全国の科学ファンがそれぞれの端末から見ているというわけである。

最近議論が収束した雑談「裏返る球」の冒頭を覗いてみよう。

T₃ [09/04/01/23:44:24] 今回はロゲルギスト定番のおもちゃシリーズです。先日、スイッチピッチというおもちゃのことを教えてもらって、おもしろそうなので買ってきました。[こちらにリンクした動画](#)を見てもらうのが早いですが、プラスチック製の球体をポンと投げあげるだけで、赤から緑へ、緑から赤へと球の色が変わるんです。なかなかの見物ですよ。

K₂ [09/04/01/23:53:38] これは面白そうだ。勿論、電池やモーターのような仕掛けは入っていないのだよね？

E [09/04/02/04:13:21] 先日 T₃ 君に見せてもらったのだけれど、動力や特殊な部品なしに、三種類のプラスチック製の部品の組み合わせだけで実に見事な幾何学的構造を作っている。そして、それが絶妙に機能して

*3 thread; web 掲示板の一つの単位で、共通の話題についての一連の投稿の集まりを指す。

色が変わるのです。

C [09/04/02/06:48:56] 残念。この前の会合にそんな面白い物が出てきたとは。T₃ 君、週末の晩あたり僕のところを持って来てくれないかな。旨いブランドーをご馳走するよ。

この先、同人たちが愉しく議論しながら、おもちゃの機構を議論し解明していく様子が続く。しばらくして「二つの互いに双対な正四面体が入れ替わる」という要の機構がはっきりした頃、雑談のなかに DS さんという同人以外の人物が登場する。彼は、このスレッドに書き込めるように一時的に登録された「招待メンバー」なのだ。

雑談集の各々のスレッドには、「公開雑談所」という別の掲示板が付属している*4。「公開雑談所」はごく普通の web 掲示板で、一定の登録をすませれば誰でも書き込める。もとなる雑談スレッドでの同人たちの議論への感想、コメント、批判などが自由に書き込まれ、こちらの掲示板で独立に議論が進むことも珍しくない。DS さんは、いち早くスイッチピッチを購入してパーツに分解し、その様子を公開雑談所で報告した。T₃ が買ったおもちゃを分解しようと狙っていた同人 A はこれを見て「先を越された！」と大いに悔しがり、直ちに DS さんが同人たちのスレッドに招待されることになったのである。分解と組み立てのコツや、分解して初めてわかる細かい構造などについて DS さんとロゲルギストたちの活発な議論が続いた。

議論が収束したスレッドはそのまま「雑談集」に残り、いつでも読むことができる。主催したスレッドの内容がとくに気に入ったときには、ロゲルギスト同人はスレッドをもとに独立したエッセイを書き下ろすのが普通だ。T₃ 氏は「色が変わる球」についてのエッセ

イをまとめているところだろう。

「雑談集」の中で今も活発に議論が続いているスレッドは、「相対性理論のパラドックス (その 12)」、「完全平泳ぎ：完全流体中での遊泳法」、「新型インフルエンザとリスク評価」など。インフルエンザについてのスレッドでは、最初から感染症の専門家とリスク評価の専門家を招待し、切実な問題に対応する合理的な態度についての活発な議論を進めている。このスレッドは全国的に注目の的になり、付属の公開雑談所は例を見ない爆発状態になっている。

web を教育や知的娯楽に用いる試みでは、期待ばかりが先行して実質的な実りが得られないことがほとんどである。web のシステムがあまりに開放的であるため、外界からのノイズを遮断して情報の質を確保・維持することが困難になってしまうのが主たる理由だろう。www.logergist.ac.jp の例外的な成功の要因をメンバーの質の高さとネームバリューだけに求めるのは誤りだと私は考えている。web 掲示板の文化を冷静に分析した上で、「適度に閉じて、適度に開いた」環境を web 上に構築し、その中に古き良きロゲルギストのスタイルを再現したことが成功の要だったのだ。昨今では、www.logergist.ac.jp は、科学という枠を越えて、web による文化貢献という文脈で頻繁に言及されるようになってきた。この、科学者による文化への素晴らしい貢献がこれからも高い質を保ちながら続いていくこと、そして、将来的には、ロゲルギストの成功を踏まえ彼らに代わる優れた啓蒙の試みが科学者のあいだから生まれてくることを願いつつ筆を置く。

学習院の、かつてのロゲルギスト O の研究室 (そして、「あり得たかも知れない現在*5」での T₃ の研究室) にて。

*4 もちろん、www.logergist.ac.jp の本家以外にも「雑談集」を「ウォッチ」する掲示板やブログはたくさんある。巨大匿名掲示板にも「ロゲルギスト板」があり、つねにたくさんスレッドで賑わっている。

*5 ただし、スイッチピッチは実在するし、ここに登場する人々も実在の人物をモデルにしている。